

こんにちは 市民病院です

栄養サポートチーム

飛騨市民病院の栄養サポートチーム（Nutrition Support Team：NST）は、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・理学療法士・言語聴覚士・作業療法士など多職種連携し、入院患者一人一人に最適な栄養管理を提供して、治療効果の向上や合併症の予防を目指す専門チームです。チームメンバーには、栄養治療学会認定医、NST専門療養士や新たに看護師特定行為研修を修了した特定行為看護師も在籍しており、より高い専門性でサポートします。

■特定行為看護師

所定の研修を修了しているため、医師の指示に基づいて脱水時に点滴を行う、状態に応じて栄養価の高い点滴の量の調整をする、血糖値の状態でインスリン注射の量の調整をする、など医師を待たずに判断して患者様に最適な栄養管理を素早く行うことができます。

<当院NSTの具体的な取り組み>

食事時のむせ込みが気になるとき、飲み込み具合を評価して専門的なリハビリを行う入院制度があります。

また、血糖値が安定しない、糖尿病が心配、糖尿病の悪化に対し専門的な食事療法を指導する入院制度もあります。食事時のむせ込みが気になる、糖尿病の心配やなかなか血糖値が安定しないことの不安などがありましたら飛騨市民病院のNSTに相談しませんか？



問 飛騨市民病院

TEL 0578-82-1150



そろそろ 終活

<その78> はじめませんか？

終の棲家の見直し

終活を考える中で、最も難しい問題だと思われるのが「所有の不動産の行く末」です。

特に持ち家の整理は困難な場合が多いでしょう。今や子どもが自立すると実家へ戻らないということも当たり前の時代です。また相続となると、誰も引き継ぎたがらないということもよく聞く話です。

この八方ふさがりになりがちな不動産の問題の対策を3つ考えてみました。

1つ目は『売却』です。高齢者向け

の住宅への住み替えや、子どもとの同居などができれば、住まなくなった自宅や土地を売却することで、老後の資金を得ることができます。

「どうせ売れない」と思う前に、一度、不動産会社で査定してもらうことをお勧めします。

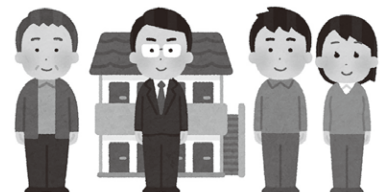
2つ目は『活用』です。手放すことはなかなか決心がつかない人も、賃貸物件として貸し出す方法があります。飛騨市でも空き家を貸したい・売りたい人を対象に、市内不動産業者と連携した空き家情報サイトを開設して支援しています。

3つ目は『相続・遺言』です。不動産をそのまま残し、子どもや孫などに引き継がせるという選択ももちろんあります。また、その際には、誰にどの不動産を引き継がせるのかを明確にした公正証書での遺言書を作成することをお勧めします。

自宅不動産の終活を考える時、今

の自宅が果たして「終の棲家」としてふさわしいのかどうかを元気なうちから見直しておくことが大切です。

そして、家族がいる人は、まずは家族の意向を聞くことも非常に重要です。同じ家族でも自宅に対する思いはさまざまです。ぜひ家族会議をしてその行く末を考えてほしいと思います。



問 飛騨市終活支援センター
（飛騨市社会福祉協議会内）

TEL 0577-73-3214